

反核医師の会

HANKAKU
ISHI no KAI NewsPhysicians Against Nuclear War(PANW)
核戦争に反対する医師の会〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

第12回全国大会開催される 核戦争に反対する医師の会

第12回全国大会が、6月12日に東京の全労連会館で開催された。参加者は11都道府県から36名であった。昨年の第11回全国世話人会で、今年から会議の名称が全国大会と変更された。

大会は、向山、雪田常任世話人を議長に選出し、秋山和雄常任世話人の開会挨拶で始まった。開会挨拶では、「今年は北朝鮮の核実験で波乱の幕開けとなった。核兵器の非人道性に関する声明は192カ国が賛同した。現職大統領として、オバマ大統領が広島を訪問し「核兵器国は攻撃を受けるから核兵器を持つという恐怖から逃れる勇

2015年度活動のまとめ 2016年度方針案

討論の上了承

議事では、中川代表世話人から2015年度の活動のまとめと2016年度の方針案が文書に基づき提案され、討論の上了承された。

討論では、JPNPWとの関係、団体会員の現状、原発輸出、福島での小児甲状腺がんの多発、ICANパンフの増刷、核兵器廃絶を求める署名、劣化ウラン弾、9月26日核廃絶デーの取り組みなどについて活発な発言・討議がなされた。

青木克明常任世話人からは、原爆症訴訟の現状について、甲状腺機能亢進症やバセドウ病が認定

されたこと、一方で更新が厳しくなり治療継続の証拠がないとダメとなった、また、被爆者援護関係でがん検診と胃がん検診で胃力メラでもいいとなった、などの追加報告がされた。

オバマ来広について、韓国の世論の動向についても議論があり、オバマ氏が大統領を降りた後の活動への期待もみだされた。また、原代表世話人からは、JPNPW北アジア大会、DAN等国際交流活動等について報告があった。医学生フィードバックは、オバマ来広の翌日、学生8人、研修医1

人を含む23名が参加。鎌田七男先生を講師に被爆者医療についてお話を伺ったとのことであった。

「申し合わせ」の改定について

「申し合わせ」の改定については、中川代表世話人から「本会の理念につ

補足として、反核医師のつどいin宮城を11月5、6日で東北大学の長陵会館で開催、美根慶樹氏、セシル氏の講演と震災復興、原発問題などに関する講座が4つ予定されていることが報告された。

予算・決算案、監査報告

の経験から、核(原子力)発電所の問題にも取り組む。核発電所事故を含む被ばく者を支援する。核

戦争の背景となる通常戦争や平和問題等にも取り組む。』と提案があり、議論の結果了承された。

午後は市民講演会行われる

予算、決算案・監査報告については、飯田哲夫代表世話人から、「2015年度の財政危機から特別力ンパを呼びかけ、経費削減、国際会議が行われなかったこと等により財政状況が好転した。予算案

午後、核軍縮をめぐる世界のいま」と題する、中村桂子氏(長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授)の市民公開

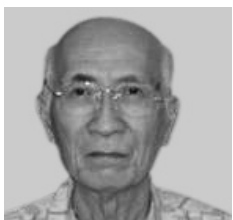
講演会が行われ、核兵器廃絶をめぐる現状の認識を深めた。(講演の詳細は次号に掲載予定) 代表世話人 中川 武夫

「我々は戦争も核も原発もいらない」

東日本大震災の被災地から訴える

第27回「核戦争に反対する医師・医学者のつどい」

実行委員 刈田啓史郎



刈田啓史郎氏

今年の5月27日、アメリカのオバマ大統領が被災地広島を訪れ、記念の式典で演説を行った。核兵器を投下した国の代表者の被災地訪問は、被爆の実相を理解してもらうためにも意義深いものであった。一方、昨年(2015年)の国連総会では、核兵器の問題を、これまで主に進められてきた安全保障という観点か

らではなく、人間に対する被害、人道的問題として議論する試みが進んできている。そのことで、これまでなかなか進んでこなかった核軍縮交渉を進展させたいとする動きである。残念ながら、この動きに核保有国からの賛同はまだ得られていないが、被災地広島を訪れ、核兵器の恐ろしさを目の当たりにしたオバマ大統領には、この動きを積極的に受け止めて欲しいものである。

東日本大震災から5年が経過したが、いまだに被災者の多くが住む場所を追われ、生存権が守られていない状態が続いている。東京電力福島第一原子力発電所の原子炉メルトダウン事故によって発生し、広い地域に飛散した放射性物質による人体被曝の影響も、十分に明らかにされていない。また各地に保管されている放射性物質汚染廃棄物の処理も、政府の強引な進め方に住民の同意が得られず、放置されたままである。また今年4月から続いている熊本県の震災は、あらためて地震国日本での原発の危険性を提起することになった。

そのような状況が進む中で、今年の11月5、6日に、第27回の「核戦争に反対する医師・医学者のつどい」が、東日本大震災の被災地の宮城県(仙台市)で開催される。初日(5日)には、外交官を経験され国際情勢に詳しい美根慶樹氏に記念講演「核廃絶の国際的世論と核保有国の動向」北東アジアの非核地帯化に触れて」を、福島原発事故の移住政策や原子力社会について多くの論文を執筆されているセシル・浅沼リブリス氏には特別講演「核の妄想」なぜ日本人は核を受け入れたのかをお願いしている。

翌日(6日)には、第1部として峯廻攻守氏(札幌西円山病院名誉院長、浪江町国保仮設津島診療所)に「東日本大震災・福島第一原発事故被災者5年間の軌跡」浪江町民の場合」を、今野順夫氏(福島大学名誉教授)に「福島復興の課題」を、また第2部として、大槻憲四郎氏(東北大学名誉教授)に「地震国日本における原発の危険性」を、明日香壽川氏(東北大学教授)に「世界は脱原発と脱温暖化の両立をめざす」をお願いした。つどいには、放射線被曝に苦しむ福島、宮城の住民も参加してくれるので、全国各地からの参加者には、その人たちの声もぜひ聞いていただきたい。また、仙台にはおいしいものが沢山あり、そちらも満足いただけるよう準備している。

(N)



71年前の雲のないう晴れた朝、死が空から降ってきた」オバマ米大統領は初めて訪れた

広島で、スピーチの冒頭を詩的な表現で印象付けた。

晴れた日に降ってくる、という光景から70年代のヒットナンバー「雨を見たかい」を連想した人も少なくなかったのではないかと。「雨を見たかい」晴れた日に降ってくるんだ」と繰り返すこの歌詞は、当時ベトナム戦争で米軍が大量に使用したナバーム弾を表現したものとされ、米当局から放送禁止処分を受けた。ナバーム弾は太平洋戦争で焼夷弾に由来し、木造家屋やジャングルを高熱で焼き払う大量殺戮兵器である。非人道的として湾岸戦争後に禁止され、2001年にはすべて処分されている(米軍発表)。

核兵器も、太平洋戦争末期に使用されたという点では同様だが、禁止そして廃絶には道半ば、今が正念場である。

「雨を見たかい」では「こんなこと、いつになったら終わるんだ」という嘆息が、美しい旋律にのって囁かれる。長引くベトナム戦争で兵士たちに広がる厭戦思想と罪悪感が、この佳曲を生み出したのだらう。戦争推進に不都合な楽曲を放送禁止とするのも、(核兵器を)降らせてことを「降ってきた」と美文で言い逃れるのも、兵器を使用した権力者の所業であることを忘れてはならない。

(N)

反核医師の会学生部会

「広島平和学習会」報告

第3回医学生フィールド活動

反核医師の会代表世話人 原 和人

反核医師の会は、核兵器の廃絶に向けた医学生や研修医の活動を援助するために、2014年と2015年に長崎で平和学習会を開催してきた。

今年度は広島で開催したいという要望があり、オバマ米大統領の広島訪問の翌日、5月28日午後から29日の午前にかけて広島で開催した。

今回の参加は、信州大学から4名、東北大学から1名、北京大学から2名の

8名の医学生と、福岡から研修医1名、その他医師3名を含めて総勢23名の参加となった。

第1日目の午後は、反核医師の会の青木克明常任世話人にコーディネートをお願いし、ピースナビゲーターの永原さん、梶岡さんにもガイドをお願いして3時間かけて広島駅から広島城まで歩きながら被爆遺跡を見学した。佐々木貞子さんの母校である織町小中学校を訪問した時、佐々木さんと同級生だったという男性と偶然お会いし、その当時のお話をお聞きした。当時、中学に入学した学生の中で15%ほどケロイドがあった子がい



たが、中学を卒業する頃には、みんないなくなっただという話であった。広島城では、地下司令部跡などを見学した。

夕方には、核兵器廃絶をめざす広島の会の共同代表の森瀧春子さんから「核開発がもたらしたものの」というテーマでお話

をめぐり、原爆による被害は、体内における遺伝子異常を起すことであり、それが、核兵器が非人道的兵器である証拠であると述べられた。その後、3つのグループに分かれて、フリーディスカッションを行った。



参加者全員で記念写真

習日は、午前中、広島原爆被爆者援護事業団理事長の鎌田七男先生から「核兵器の非人道的性」とたかうーヒロシマの医学者として歩んで55年」というテーマでお話を伺った。鎌田先生は、主に爆心から500m以内の生存者の診療にあたっ

た。これら、被爆者のケースを紹介しながら、原爆による被害は、待したい。

広島平和学習会

感想文

東北大学1年 A・H

■碑めぐりに
ついて

初めての広島は、もちろん完全に復興していたが、被爆ボンプや、被爆した公衆トイレ、被爆樹木、被爆橋梁、また数々の記念碑などを見ると、原子爆弾を落とされた都市であるということを実感した。世界平和記念講堂では、この教会が広島にある意味について考えることができた。このような建物は、原爆が世界規模で考えられていることを示すだけでなく、人々が集まって祈る場として、そこにあるだけで大きな役割を果たしているのだらうと思った。広島城では、地下司令部、大本営跡などを見学した。70年前というところもあるが、地下に3つ並んだ情報室は天井が低く、狭くて重苦しい印象で、戦時中のつらく切迫した状況を感じ取ることができた。ガイドさんの話から、当時の日本の混乱を知ることができ、社会の空気を異常にしてしまう戦争の恐ろしさを痛感した。

■学習講演

森瀧春子さんの講演では原爆についてはもちろん、劣化ウラン兵器の危険性についてその被害者の写真と実際に訪問した時の経験談と一緒に語ってくれた。それはとても衝撃的で、しかし今は当時よりもひどい状態だと言葉がさらにショックだった。そこに住む人々はただ生きているに精一杯で、力のある人や、冷静に判断できる

■記念講演

鎌田先生は被爆者医療に、臨床と研究の両方で尽力されていた。被爆者の生涯から見た原爆の非人道的性ということで、遺伝子異常が起り、複数のガンや白内障を抱える

■夕食交流会

長野県民医連の方々、東京民医連の方とお話できた。意識が高いたけでなく、積極的に行動に移す姿勢は本当に尊敬するものだった。学ぶ楽しさを感じることができたのは良いことだと思う。見習う点が多く見つかった。先輩方のお話はとても勉強になった。

■その他

1日目の午前中に原爆ドームと資料館を見学させていただいた。日本人として一度は行くべき負の遺産であり、大事な経験となった。外国人の方などいても多くの人が訪れていたのが印象に残った。

この2日間を通して、1人ではできない学びがたくさんあり、今回の学習会に関わる方々に本当に感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございました。



オバマ大統領のヒロシマ訪問の意味するもの



常任世話人 青木 克明

5月27日、オバマ氏はG7の帰路に米国大統領として初めてヒロシマを訪れた。警備は厳重をきわめ、前後には熊本県警の車列まで見かけた。

岩国基地を1時間半かけて視察し多数の海兵隊員を激励した後、4機のオスプレイに護衛された米軍ヘリで訪れた広島は1時間に満たない滞在だった。原爆資料館では展示を見ることがなく、いくつかの遺品を手にとっただけで記帳を済ませ、市民を閉め出した平和公園で献花とスピーチを行った。その後2人の軍人が核のスイッチが入った靴を持って従っていた。

スピーチ冒頭の「空から死が降ってきた」という表現は米国民には「真珠湾の不意打ちに天罰が下された」と聞こえるであろう。非人道的な兵器で多数の市民を殺し、今なお放射線の後障害で苦しめていることへの謝罪はなく、核兵器廃絶への具体的進路は示さなかった。当初は捕虜米兵を同行して被爆者代表と和解させるシナリオだったようだが、沖縄での元海兵隊員による女性殺害事件後に急遽変更となり、原爆で同士討ちにされた捕虜米兵の調査と慰霊をしてきた被爆者、森重昭さんが招かれた。その数は米国では10人とされているが、森さんの調べでは

12人だった。オバマ大統領はスピーチで「1ター

スの捕虜」と述べ、森さんの肩を抱いて労をねぎらった。

オバマ氏は、自ら折ったというツルを、ヒロシマの子どもたちにプレゼントした。これが米国大統領としては精一杯の核

兵器廃絶に向けた仕事と言えよう。

広島では同時刻に、核兵器廃絶日本NGOによって「オバマ来広の意味を問う市民シンポジウム」が開催され、来広の機会を核兵器廃絶に生かせなかったことを批判した。

IPPNWは「核兵器禁止条約を邪魔するよう

な動きをすべて止め、核兵器の永続化につながる1兆ドルの投資計画を断念するとき、あなたの「核なき世界」の約束は初めて意味をもつ。それまでは空っぽの美辞麗句にすぎない」と的確な意見を

をオバマ大統領に送った。

中国・北朝鮮との緊張が高まる中で、安倍首相とのヒロシマ・ツーショットは日米軍事同盟の強化を世界に示した。

安倍首相は支持率低下に歯止めをかけ、さらに消費増税を延期して参院選で改憲勢力の3分の2を獲得をめざし、まもなく成功した。

「憲法九条」の外堀が埋められ、オバマ来広はそれに大きく加担したこととなった。国民の力で安倍首相の戦争国家復活の野望をなんとしても阻止しなければならない。

心身の重圧に向き合っている。危機的状況は去っていない。こつた情勢に対して核兵器保有国を中心に核兵器の非人道的性、被害の非人間性を追究して、核兵器の使用禁止・廃絶をめざす動きも年ごとに高まっている。

ヒバクシヤ国際署名の成功で、核なき世界を！

日本被団協事務局次長 木戸 季市



岸に沿い道ノ尾に移った。母は戸板に、私は土運び用の籠に乗せられて運ばれた。そこで見たのは、何もない街と、行っても、行っても尽きない死体と水を求める人の群れだった。人の世の出来事とは到底いえない、この世の終わりの光景だった。

沈黙を強いられ、見捨てられてきた被爆者が「今日まで、うつつもいて、わかれわかれに生き残ってきた私たちが、もうだまっておれないで手をつないで立ち上がろう」と集まり、日本被団協を結成した。今年

ある。日本被団協は、結成以来今日まで、節目、節目に調査を繰り返し、広島・長崎は何だったか、原爆は人間にたいして何をしたか、七十余年たっても癒えない巨大な原爆被害の全体像を、問いつづけ、解明してきた。被爆者は、永続する恐怖や

心身の重圧に向き合っている。危機的状況は去っていない。こつた情勢に対して核兵器保有国を中心に核兵器の非人道的性、被害の非人間性を追究して、核兵器の使用禁止・廃絶をめざす動きも年ごとに高まっている。

私たちは被爆者は、被爆者が生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望して、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」を提唱した。この署名は、思想・信条・政治的立場を越えて、誰でもできる署名と、国内外で大きな反響を呼んでいる。唯一の核戦争被爆国の日本国民と核抑止論に固執している核保有国の国民が、手を取り合い、一つになることが決定的である。世界数億の署名で核政策を変え、核兵器のない世界を実現させたい。私の決意と訴えである。

会費納入のおねがい

反核医師の会は、会員のみならずの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。

今年度は例年開催の「つどい」を(11月5日(土)～11月6日(日))に宮城で開催するほかに、様々な取り組みが予定されています。

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)会費納入のほど、よろしくお願いいたします。

会費は

個人会員(医師・歯科医師、医学者) 10,000円
医・歯学生会員 1,000円
賛助会員 1,000円

振込先

◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502
「反核医師 医学者の集い」
◇ゆうちょ銀行(他銀行からの振り込みの場合)
〇一九支店
当座 0056764
「反核医師・医学者の集い」
◇郵便振替
00170-7-56764
「反核医師・医学者の集い」

I P P N Wがオバマ大統領訪広の結果をうけて書簡

オバマ大統領の広島訪問に際してI P P N Wはオバマ大統領にあてた書簡を送っています。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)からの情報を参考にしながら東京反核医師の会事務局の方が翻訳しましたので、紹介します(東京反核医師の会のブログで全文紹介されています)。

拝啓 オバマ大統領

2016年6月6日

私たちは、大統領が広島市民に降りかかった凄まじい恐怖の証言を受け入れ、被爆者と会うことを決定したことを評価します。しかし、核兵器が2度と使われないことを確実にすることに対し、いっさい関与しないことに深く失望しています。(中略)

核保有国が自らの核兵器をなくす法的枠組みをつくる取組みに欠席するなか、127の国々が人道性の誓約に基づき、その取組みに関与しています。人道性の誓約では、「受け入れがたい人道上の影響及び関連した危険性の観点から、核兵器を忌むべきものとし、禁止し、廃絶する努力」すること、「核兵器の禁止及び廃棄に向けた法的なギャップを埋める」ことを掲げています。しかしアメリカはいまだに「核兵器の人道上の影響に関する国際会議」と、現在開催されている核軍縮を果たす新しい法的枠組みをつくる国連作業部会をボイコットしています。今、核兵器のない国々が、他の全ての大量破壊兵器が禁止されたのと同様に、核兵器を禁止する新しい取組みに向けて交渉を開始することが期待されています。そして、こうした期待は、この世代での率先した軍縮の取組みに一番重要なものです。

大統領。核兵器禁止条約の成立を妨害するあらゆる手立ての執行をやめ、核兵器を永久的に保持するため1兆ドルも費やす計画を放棄するとき、あなたの「核兵器のない世界」という呼びかけが意味を持つでしょう。それまでは、残念ですが、からっぽのレトリックにすぎません。

敬具

Ira Helfand
Tilman Ruff
Daniel Bassey
Vladimir Garkevenko

読書案内

地球を見つめる 『平和学』

「石の科学」から見えるもの
赤井 純治

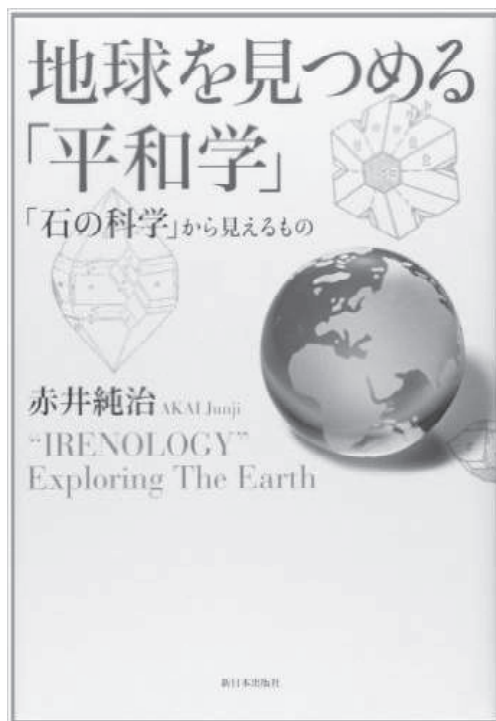
〈新日本出版社〉

書評から、新潟大学での教養教育などを通じて平和問題を扱い、学生たちに主体的に学ぶ場を提供してきた著者のユニークな実践記録であること。鉱物学という視点と、地球史的な時間スケールで「3・11」が投げかけている課題に取り組

む書籍であり、原発が核の軍事利用、の副産物であることを分かりやすく示しさらに核兵器は地球環境と共存できないということを説いている。「戦争は科学を進展させる」論の誤りも指摘し、大学は軍に関連する研究、技術開発等

を拒否すべきで、これがこそが真理探究に携わる大学人の誇りと理想であり、平和への貢献だと訴えている。講演では、アメリカ的軍産学共同体が社会に対して戦争中毒体質を植えつけると告発、ドイツでは、一部の大学でこれ(軍産との共

同)を拒否する宣言がなされていることが紹介された。
(新潟県反核医師の会の講演会資料の書評から一部引用)



核兵器と原発がいかに地球環境を破壊し、人類へ致命的打撃を与えるか。地球科学・鉱物学の専門家が、地球科学の知見を紹介しながら平和について考える。

核戦争防止和歌山県医師の会

第28回総会開く

総会後

映画上映と平和講演会

6月11日、核戦争防止和歌山県医師の会第28回総会を開き、総会後、映画上映会と同映画の監督である伊東英朗さんによる平和講演会が開催された。午後1時から5時半までという長時間。しかも極めて重い内容。にもかかわらず、ほとんどの方は最初から最後まで熱心に聞き入っていた。総参加者数210名。以下は要旨。

映画上映

映画「放射線を浴びたX年後」…アメリカが南太平洋で行った一連の核実験で第五福竜丸以外にも多くの日本の漁船と乗組員が被ばくした。歴史

から葬り去られようとした被ばくの真相を、高知県で地道に調査し続けた教師と高校生の足跡をたどりながら明らかにしていく。

映画「放射線を浴びたX年後II」…映画「放射線を浴びたX年後」を見たことがきっかけで、漁師だった父の早すぎる死に疑問を持ち、調査を始めた娘。半世紀前の太平洋核実験で父は「被ばく」していた。一方、取材チームは放射線防護学の専門家の助けを借り、1950年代に建てられた家の床下の土から核実験による人工放射性物質を検出、今も日本列島に影響を及ぼしていることを明らかにした。

「記念講演」

1946年から南太平洋の放射能汚染は始まっている。1952年には、1954年の第五福竜丸が被ばくした水爆実験・ブラボーとほぼ同じ規模の核実験・マイクが行われ、その時から、アメリカは自国本土、日本を含む世界各地に放射能のモニタリングポストを設置しており、地球規模で汚染が起ることが分かっていた。アメリカ原子力

国の隠ぺいにより、国民は汚染マグロを食べていた。そして国民は、事件のことも放射能雨のことも忘れていった。このことはいまだに取り返しがつかない。同じことを福島で繰り返さないことが重要だ。放射線を浴びたX年後にどうなるか…。決して過去の話ではない。

(運営委員 松井和夫)



伊東英朗監督



3.1ビキニと和歌山のマグロ漁船